

「第7回きょうと明日へのチャレンジコンテスト審査項目」

評価項目	A部門		B部門	
	内容（審査観点）	補足	内容（審査観点）	補足
情報収集	問いの背景を調べ、どのような問題があり、なぜその問題が起きているのかを理解した上で提案しているか。複数の情報源を用い、多面的に調べられているか。	問いの背景を調べることで、問題の構造を理解し、ターゲットを具体的に絞ることができる。	問いの背景を調べ、どのような問題があるかを理解した上で提案しているか。基本的な情報収集ができているか。	問いの背景を調べることで、問題の概要を理解し、提案の方向性を定めることができる。
分析	企業・大学等から提示された「問い」に対する提案になっているか。問いとの整合性を常に確認しながら進められているか。	問いに対してズレのない提案になっているかを審査する。進行中も問いとの関係を確認しながら進めることが重要。	企業・大学等から提示された「問い」に対する提案になっているか。内容が問いからズレていないか。	問いに対してズレのない提案になっているかを審査する。
仮説構築	「誰に」「どのような手立て」を打つべきかを整理し、多面的・多角的な視点でアイデアを構築できているか。教科横断的な学びを総動員できているか。	多面的・多角的な視点でアイデアが構築されているかを審査する。ターゲットを具体化することでアイデアも具体的になる。	「誰に」「どのような手立て」を打つべきかを整理し、シンプルなアイデアとしてまとめられているか。	ターゲットを簡易に絞ることで、アイデアが明確になる。
検証	校内交流や企業・大学等の専門的視点を踏まえ、提案内容の実現可能性を検証できているか。気づきや改善が反映されているか。	校内交流や他者の視点を通して、自分たちだけでは気づけなかった点を補い、実現可能性を高めることを重視する。	校内交流等を通して、提案内容の実現可能性について気づきや改善が見られるか。	他者の視点を取り入れ、提案の実現可能性を高めることを重視する。
アウトプット	聞き手を意識し、伝えたいことが伝わる構成になっているか。キャッチコピー、資料構成、話し方などに工夫があるか。	キャッチコピーや伝える順番など、資料内容や話し方の工夫を審査する。	聞き手に伝わる構成になっているか。必要な情報が整理されているか。	資料の構成や話し方など、伝え方の工夫を審査する。
変容（新設）	探究の過程で生徒自身の見方・考え方・価値観にどのような変化が生じたかを、具体的な経験や気づきとともに振り返り、提案内容との関連を踏まえて言語化できているか。	問いに向き合う中で生まれた気づきや視点の変化を振り返り、それが提案内容にどう影響したかを評価する。A部門の特徴である「深い探究」を位置づける項目。		
交流	全員の意見が反映され、役割分担を行いながらチームで取り組んでいるか。協働のプロセスが提案に生きているか。	チーム全員で取り組み、役割分担が適切に行われているかを審査する。	全員で取り組み、意見を出し合いながら提案をまとめているか。	チームで協働し、意見を反映しながら進められているかを審査する。